

平成25年6月5日

江差町議会議長 打越 東亜夫 様

総務産業常任委員会  
委員長 萩原 徹



委員会調査報告について

本委員会に付託の調査事件について、会議規則第78条の規定により下記のとおり報告いたします。

記

- 1 調査事件 平成24年第4回定例会  
発議第4号 かもめ島周辺利用等に関する事務調査
- 2 調査期日
  - 12 月13日 所管事務調査事項の決定
  - 1 月23日 調査の進め方に関する方針の決定
  - 2 月14日 かもめ島周辺の所管課ヒアリング
  - 5 月 9日 かもめ島現地調査
  - 5 月17日 かもめ島周辺の地域振興と市街地活性化検討事業(コンサル委託)に係る所管課ヒアリング及び報告に向けた協議

3 調査の結果

道立自然公園指定「かもめ島」及びその周辺は、港湾施設や海洋性レクリエーション施設の配置などで、町振興の財産として貴重な観光資源が集積されている。また、当該地区は「みなとオアシス江差」に登録され人的・物的面での交流の空間として、地域振興の活性化上で重要な拠点と位置付けられる。委員会では、平成27年度の新幹線開通や交通ネットワークの新しい時代を見据えた上で、同拠点における地域振興と賑わいの創出について調査を進めた。この間、かもめ島周辺等の公共施設等を管理・所管する関係課(3課)並びに地域政策所管課とのヒアリング、「かもめ島」の現地調査などを経て調査を進めてきた。これら調査結果について、次のとおり意見を付して報告する。

【意見】

(1) 道立自然公園「かもめ島」の環境整備について

かもめ島は、町の発展を物語る歴史的文化史跡が集積し、また市街地や島上からの眺望と景観は特有の観光資源である。近年では、かもめ散歩道の整備、広域フットパスルートの整備など取り進めており、町民の憩いの場やレクリエーションの場を形成している。自然公園としての、理念の中には、自然の風景地を保護するとともに、利用の増進を図ることも目的の一つである。よって、次の点について一層の整備と取り組みを期待する。

●島内には、史跡・名勝が数多く残されており、案内板も設置されて散策ルートも設定されている。多くの人が、島上まで散策し保健や体育など教化に資するような事業等を検討されたい。また、その魅力について広く情報の発信を進めるべき。

●平成25年度予算執行の遊歩道防護柵整備については、スピード感を持ってあたり、緊急度の高い箇所の施工など十分配慮すべきである。

●公共の用途目的を達した工作物、トイレ(2ヶ所)、ベンチ、休憩所など見受けられるが、安全性や景観上から速やかに撤去等措置が必要である。



●島上には、使用許可による建物物件(宿泊施設)が1棟存在するが、建物屋根部分が応急的対応となっている状態にあり、安全面などからも所有者との協議を進め、改善を図る必要がある。

●島下部分で使用許可している、元売店建物(個人物件)については、観光シーズン等において賑わいの創出等や自然公園の利便性から所有者との協議の上で有効的な活用を検討する必要がある。

## (2) 南埠頭について

当該埠頭の振興については、「江差港長期構想計画」や江差町第5次総合計画の中で関連するが、南埠頭の再編利用計画について検討を急ぐべきである。特に、港長期構想計画に掲げている生活・観光ゾーニングや緑地部分は、町民はもとより、かもめ島や開陽丸青少年センター(海の駅)等訪れる多くの人にとっての憩える空間としての整備は不可欠である、埠頭施設の緑化部分の検討やユニバーサルデザインを考えた振興策について考慮していく必要がある。

## (3) みなとオアシスとしての活性化に向けて

当該地区は、平成23年6月25日に国土交通省北海道開発局に「みなとオアシス」に登録されている。江差いにしえ街道とともに中核を占めるゾーンであり、観光の重要な拠点の一つである。道南を取り巻く交通体系は時代とともに変遷を重ねているが、平成27年度には新幹線の開業、平成26年5月にはJR江差線の廃止と同区間のバス路線転換など当地への交通アクセスに大きな変化が出てくる。木古内町、北斗市から共に60分余りの距離にある当地にとっては、定住人口の減少化に拍車がかかる中で、交流人口の拡大は地域の賑わいを創出するには不可欠な要素である。特に新幹線開業により多くの乗降者が見込まれている中で、その開業効果を最大限享受するため当該ゾーンの情報発信と誘客の取り組みについて積極的に進めるべきである。また、JR江差線の代替として運行されるバスの運行には、利用者の利便性などから「海の駅」近傍で乗降できる経路の設定など要請すべきである。